

私たちの 声を

生きづらさを抱える

若者たちの思い・願い

届けよう!

プロジェクト

100名を超える若者が
参加したプロジェクト。
数字やグラフだけではない、
ダイレクトな「声」として
思いや願いを届けます。

生きづらさを抱える若者たちの思い、願い。

あったらいいなと思うこと。(これはプロジェクトで集まった

たくさんの「声」の一部

になります。)

働き方や採用、企業について望むこと



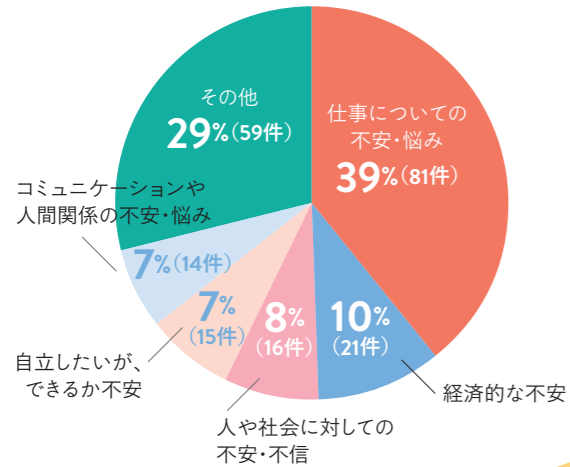
- 無職もしくはワーキングプアか、長時間残業地獄の二択は厳しすぎるので、ワークシェアリングをきちんとし、一人ひとりの希望に合わせた働き方ができる社会になって欲しいです。
- 新卒でなくても就職できるチャンスが増えてほしい。**
- 就職して正社員になって週5日働く事が当たり前とされている世の中から、人それぞれ働けるキャパが違い、**人それぞれの働き方があり当たり前**になってほしい。
- 様々な資格取得や学びをしてきたが、応募しても中卒とい

う学歴で落とされる。仕事にチャレンジさせてもらって実力をみてもらい、その上で採用してもらえると有難い。

- 今の働き方には、アルバイトと正社員の間がない。体験よりもっと長く、**仕事を覚える見習いの期間**があるといい。
- 「明るく・笑顔で人と話すのが好きな方」が好まれるのは当たり前だと思いますが、そうでなくてもそれなりに生きやすければと思います。
- 無給でいいので**まずは働かせてみてほしい**。働いてみれば案外できることがあるかもしれないし、その会社にはまるかもしれない。
- 非正規雇用だと例えばコロナで自分に保障があるのかないのかの情報がなく困る。保障は実際ないことも多い。
- 自分は不安障害があるがそれを分かってくれる会社はなかった。やっと最近、**理解してくれる会社に出会って**アルバイトに就くことができた。そういう会社が増えてほしい。

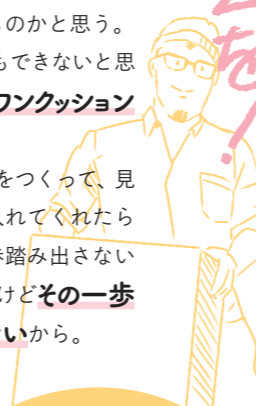
不安に思っていること、悩んでいること(アンケート集計より)

集計は延べ件数:複数の項目について自由記述している1名の回答は、その内容ごとに各項目にカウント。



- いろいろな職種の体験ができるとうれしい。**働くことの練習にもなるし、どういう方向に進みたいかのヒントにもなるから。**
- 交通費がなく職場体験を断念する人もいる。なんとかならないものかと思う。
- すぐに仕事へ、と言われてもできないと思うから、**職場体験というワンクッション**があるのはいい。
- 優しい会社がネットワークをつくって、見習いやインターンに受け入れてくれたらいいと思う。自分で一歩踏み出さないといけないのはわかっているけど**その一歩がなかなか踏み出せない**から。

職場体験、インターンシップの機会を!



ワークショップに参加していただいた社長さんからの声

- 会社は凸凹な人間で成り立っている。それが重なり合って円となる。皆さんの長所が会社の短所につながりはまる必ずあると思う。
- 一人ひとりの活躍の場を作るという方向に進んでいる企業は少しずつ増えてきていると思う。しかし一方で、まだまだそうではない企業が多いのが現状。

- 企業への認知を広げていくために、こうした出会いの場で、声を出し合うことは、これからもっと必要になってくると思う。企業としても皆さんと出会う場が全くない。知ることができれば解決できることはある。
- 今回、参加しているいろいろ気づけた。自分の企業の在り方についても改めて考える機会になった。
- 今日集まったメンバーだからこそ面白い発想があると思う。例えば「これどうしたら解決できるかな」とかみんなまでワイワイ話し合ったら、いろいろなアイデア出そうだし、それが仕事になっていくかもしれない。



- 失敗したりルールを外れたりしても、肩身が狭いと思うこともなく孤立もせず、もっと容易に誰かに相談できて、やり直しがきく社会だったらいいのと思う。
- 今の社会は「**とても生きづらい**」この言葉しか出てきません。このような事を考えてる人は、少なく無いと思っています。その様な人達を助けてあげられる様な社会になってくれたらなと思っています。
- 多種多様な生き方に寛容な社会**になって欲しい。少しでも自分はそういう人間を目指したいです。
- 一度不登校やひきこもりになると、自分だけの力で社会復帰するのは難しいなど感じます。年齢を重ねるにつれて仕事も見つけづらくなるので、**もっと気軽に社**

- 会復帰ができるようになれば**うれしいです。
- 社会に出ている人は余りに厳しいと感じています。失敗したら勿論批判されますが、失敗しなくても容姿などの外的要因や能力や考え方などの内的要因で批判されてしまう事が多いと感じるので、もっと多様な人が認められる社会になってほしいと思います。
- 一度失敗した人間に対して日本社会は厳しいと思っている。自分自身も自分の状況に負目を感じているし、リスタートしやすい社会、**一度失敗しても負目を感じづらく、何度でも挑戦しやすい社会**になれるといいと思う。

多様性を認める、やり直しができる社会になってほしい



色々な人との関わり、共有の場が増えるといい

- いろいろな人の人生を見て聞けるような機会**があればとも思います。また、自分と似たような経歴や立場の人と関われば、勇気づけられるとも思います。
- 大人になると本当に友達作りの場が少なくなるのがしんどいです。
- 匿名とかで自分が今までしてきた仕事内容とか辞めた理由とか良かったことを話し合っ、自分の本来のやりたいことを見つけるような**ディスカッションの場**があるといい。

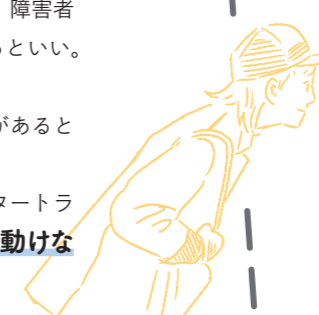
- もっと自分たちのような人たちのことを役所や企業の人に知って欲しい**。手続きなどで役所などについて働いていないというだけで、もう、見下げられてしまうことがある。
- 一般的で多くの人が通るルート以外もたくさん道があってほしいし、それらを知る機会が欲しい。
- 社会の不安感や自分の人生観を色々な人々が共有できる場所**。それが悩んでいる人や不安感を本人が解決していく方法だと思う。
- 失敗があった共有も聴けるといいけど、**失敗をどう乗り越えたところまでいろいろな方の経験を聴けるとありがたい**。
- 弱者救済に対して問題意識を持っている人達だけでもしっかりと連帯して、生きていく知識、知恵を共有出来る場が増えてくれればと思っています。

相談機関や支援について思うこと

- 公共の相談機関をもっと目につきやすい・見つけやすい場所で宣伝してほしい。**無料で相談できる場所が増えてほしい**。
- 企業が人材を確保する中で、無職者やフリーター、障害者に対して**懸念している事の伝達サポート**があるといい。
- もっと頻繁に相談に行きたい。
- 就職後の新入社員へのサポート、相談する場所等があるといい。
- 仕事をしていない負目がある。リスタートのスタートラインに立つまで「**何とかしたいけど、自分では動けないという時期**」の**サポートがある**といいなあ。

こんな学び、研修、プログラムがほしい。

- 税金や社会保険など、社会に出た後のお金に関することを**学ぶ機会がなかった**。分かりやすく教えてくれる機会がほしい。
- 障害者やグレーゾーンの人の考え方や、接し方などのセミナーをやって欲しい。
- 人と話して知らないことを知れるというのはいい。知らないことを教え合ったり、一緒に調べたりしてもいいと思う。
- 就労の為の準備だけでなく、**自分で道を選択し、考えるためのサポートがある**といいと思います。



私たちの声を届けよう! プロジェクト 概要

目的 若者の声を社会へ発信すること

生きづらさを抱える若者が多くいること、彼らが何に悩み、なぜ働くことに不安を感じているのか、どのような社会を望み、どのようなサポートを欲しているのかを企業や行政、市民の皆様知ってもらうためにこのプロジェクトを立ち上げました。

対象 よこはま若者サポートステーションを利用中の方

実施日 2022年8月～9月

構成 ①アンケート、②利用者座談会、
③利用者&企業ワークショップの3種類

成果 延べ140名の若者が参加

回答や発言内容が公開されるというハードルの高さにもかかわらず、熱心に書き込まれた107枚ものアンケートが集まり、座談会やワークショップにはキャンセル待ちが出るほどの申し込みがありました。若者が声を上げる機会を欲していることが分かりました。また、プロジェクトに参加すること自体が、思いの共有を通して勇気づけられたり新たな気づきを得たりという有益な機会にもなっていました。

彼らの声を聞くことで、社会がどう変わっていくべきかを考え共により良い社会を作ることができたらと願っています。中面及びHPに掲載している若者のリアルな声をぜひご覧ください。

2 利用者座談会

2022年9月6日、9月9日の2回に分け、14時～16時に実施。延べ17名の若者が参加。ファシリテーターは若者支援に長く携わるNPO法人パノラマの織田さん。初対面で緊張感もありましたが、徐々に雰囲気はほぐれ、日頃感じていることや不安に思っていること、サポステについて思うことなどを話し合いました。



3 利用者&企業ワークショップ

2022年9月20日12時～14時 上記座談会に参加した若者16名、株式会社スリーハイの代表取締役男澤誠様、株式会社Woo-By.Styleの代表取締役野村美由紀様、横浜市社会福祉協議会職員が集まり、二つのグループに分かれて話し合いました。こんな社会になってほしい、こんな仕組みがあったらいいのに、など率直な意見を出し合いました。「時間がもっと欲しかった」「次回を楽しみにしています」と感想が出るほど盛り上がりました!



1 アンケート

年代	延べ件数	割合
10代	3	3%
20代	49	46%
30代	45	42%
40代	10	9%
合計	107	

「今、あなたが自分の将来のことで感じている希望や不安はどんなことですか」「もっとこんなサポートがあったらいいのに、と思うこと」「社会に対してこうなってほしいとあなたが思っていること」などを記述式で自由回答してもらいました。約1ヶ月間の回収期間に107枚の回答が集まりました。

HPではより多くの声をご覧ください。

若者支援にご興味をもって頂いた企業様、団体様がいらっしゃいましたらご連絡ください。ご協力をお待ちしております。

よこはま若者サポートステーション
(特定非営利活動法人ユースポート横浜)
声プロジェクト係宛
TEL: 045-290-7234
E-mail: npo@youthport.jp
横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル3階
<https://www.youthport.jp/voices/>



サポステ
若者サポートステーション



ヨコハマで、すぐヨコへ。